考察シートプラス

予 問題に対する自分の予想を振り返って書く。
（例）わたしは、・・・だと予想した。

結 実験や観察の結果を書く。（事実）
（例）結果は・・・だった。

分 結果からどのようなことが分かったのかを書く。（自分の結論）
（例）この結果から、【問題】は○○○○であることが分かった。

十 予想から結果までの中で、気づいたことを書く。
身の回りの生活とつなげて考えたり、新たな問題を見いだしたりする。
（例）この実験で、まだ●●●ということは明らかになっていない。

自己評価



4つ書けた ⇒ プロフェッショナル
3つ書けた ⇒ スペシャリスト
2つ書けた ⇒ マスター
1つ書けた ⇒ チャレンジャー

ワンランク上

「考察シートプラス」活用のポイント

「だれでもできる！考察シート」の項目に、「＋」の項目と、自己評価を追加しています。

考察シートプラス
データダウンロード

プラスの価値

「問題」に対する「結論」以外にも、気付いたこと、気になったこと、もっと知りたいことなど、子供の学びは多様です。次の「問題」の見いだしにつながる「問い」になることもあります。また、身の回りの生活とつなげて考えさせることは、理科を学ぶ価値を深めることにもなり、大切な視点です。

自己評価

「予」「結」「分」「＋」のうち、いくつ書けたかで自己評価をさせます。明確な基準があることで、よりよい考察を書く意欲につながります。また、児童の自己評価を基に、教員自身の授業改善にも生かせます。

予　問題に対する自分の予想を振り返って書く。
（例）わたしは、・・・だと予想した。

結　実験や観察の結果を書く。（事実）
（例）結果は・・・だった。

分　結果からどのようなことが分かったのかを書く。（自分の結論）
（例）この結果から、【問題】は○○○○であることが分かった。

＋　予想から結果までの中で、気づいたことを書く。
身の回りの生活とつなげて考えたり、新たな問題を見いだしたりする。
（例）この実験で、まだ●●●ということは明らかになっていない。

＋自己評価



4つ書けた　⇒　プロフェッショナル
3つ書けた　⇒　スペシャリスト
2つ書けた　⇒　マスター
1つ書けた　⇒　チャレンジャー

予 問題に対する自分の予想を振り返って書く。

（例）わたしは、・・・だと予想した。

結 実験や観察の結果を書く。（事実）

（例）結果は・・・だった。

分 結果からどのようなことが分かったのかを書く。（自分の結論）

（例）この結果から、【問題】は○○○○であることが分かった。



考察シート

だれでもできる！「考察シート」活用のポイント

考察では、観察・実験の結果から、どんなことが言えるのかを書かせることが大切です。
そのため、予想や、観察・実験の結果などをきちんと言語化させて振り返ることが欠かせません。

結果（事実）を書く

「結果」は「分かったこと」と違い、自分の解釈や判断を入れません。あくまで事実（写真・図・イラスト・表）を改めて言語化させることが大切です。

予想を振り返る

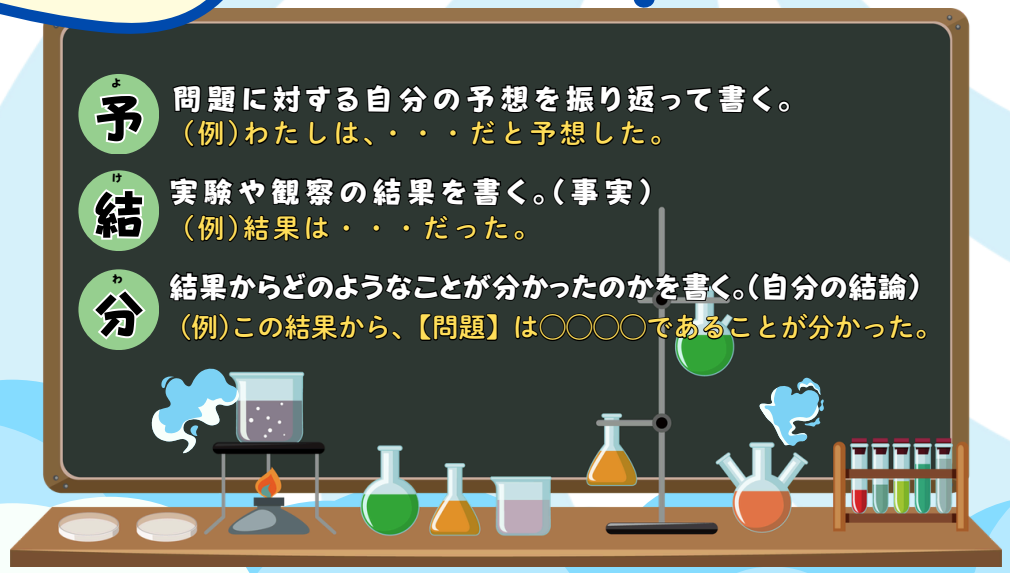
自分の立てた予想と、実験結果を比べることで、予想の質を確かめることができます。予想と結果が違っていたことを理解することも大切。予想が違っていたときの原因を考えることで考察が深まります。

分かったこと（解釈）を書く

結果（事実）から、今回の問題の結論を個人で考えさせます。問題と結論が正対するように、ここで改めて問題を書いた上で、起こった現象を一般化させることを目指します。

※一般化…個別の事例や現象を、抽象化すること。事象を「きまり」にしていくこと。





考察シート
データダウンロード

